NIAD-QE

6

３つのポリシーの策定について

平成３０年６月

大学改革支援・学位授与機構

大学機関別認証評価等研修会

3つのポリシー

NIAD-QE

◆学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

学位授与に関する基本的な考え方について、各大学等が、その独自性並びに特色を踏まえ、まとめたもの。この方針において、卒業（修了）生に身に付けさせるべき能力に関する大学の考えを示すことにより、受験者が大学を選択する際や、企業等が卒業（修了）生を採用する際の参考となる。機構の認証評価では、同方針について明確に定めそれに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され有効なものとなっているかを評価する。

◆教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

教育課程の編成及び実施方法に関する基本的な考え方をまとめたもの。この方針の策定に当たっては、教育課程の体系化、単位の実質化、教育方法の改善、成績評価の厳格化等について留意することが必要である。機構の認証評価では、同方針について明確に定め、それに基づいて教育課程が体系的に編成され、その内容、水準が授与される学位名において適切であるかどうかを評価する。

◆入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

各大学・学部などが入学志願者や社会に対し、その教育理念や特色などを踏まえ、教育活動の特徴や求める学生像、入学者の選抜方法などの方針をまとめたもの。入学者選抜や入試問題の出題内容にはこの方針が反映されることとなっている。機構の認証評価では、大学等に対し、アドミッション・ポリシーの策定・周知を求めるとともに、実際の受入学生の状況を通じてポリシーの実効性について評価を行う。

高等教育に関する質保証関係用語集/Glossary of Quality Assurance in Japanese Higher Education　より

２巡目における「ポリシー」の評価

NIAD-QE

◆基準4 観点4-1-①

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

◆基準5 観点5-1-①

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ ているか。

◆基準5 観点5-3-①

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められているか。

《課　題》

- 「定められているか」を分析するだけで、相互の関係について扱わなかった。
- 入学⇒履修⇒卒業という順番で分析するために、期待される学習成果を明示するディプロマ・ポリシーが最後の項目になってしまっていた。

平成28年3月の関係法令の改正

NIAD-QE

◆大学に対する要請(学校教育法施行規則、大学設置基準等改正)

- ３つのポリシーの策定公表（29年度から）
- SD、教職協働

◆評価機関に対する要請(細目省令改正)（30年度から）

- 「内部質保証」(チ)、「３つのポリシー」(へ)を認証評価すること
- 特に、「内部質保証」は「重点的に認証評価を行う」こと
- ステークホルダーの関与の増大(第1条第1項第四号)
- 評価機関自身の自己点検・評価を行うこと

学教法施行規則第165条の2の追加

第165条の2

　大学は、当該大学、学部又は学科若しくは課程(略)ごとに、その教育上の目的を踏まえて、次に掲げる方針(略)を定めるものとする。

　一 卒業の認定に関する方針

　二 教育課程の編成及び実施に関する方針

　三 入学者の受入れに関する方針

2 前項第二号に掲げる方針を定めるに当たつては、同項第一号に掲げる方針との一貫性の確保に特に意を用いなければならない。

法令改正を踏まえた機構による認証評価３巡目における取扱い

NIAD-QE

◆ 基準５－１　学生受入方針が明確に定められていること

分析項目５－１－１

学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること

【分析の手順】

・学生受入方針において、以下の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。

・求める学生像については、入学前に学習しておくことが期待される内容

・入学者選抜の基本方針については、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか

・特に学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の３要素（（１）知識・技能、（２）思考力・判断力・表現力等の能力、（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」についてどのような成果を求めるか）

◆ 基準６－１　学位授与方針が具体的かつ明確であること

分析項目６－１－１

学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること

【分析の手順】

・学位授与方針において、以下の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。

　・学生の進路先等社会における顕在・潜在ニーズ

　・学生の学習の目標となっていること

・「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学習成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかが具体的に示されていること

法令改正を踏まえた機構による認証評価３巡目における取扱い

NIAD-QE

◆ 基準６－２　教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること

分析項目６－２－１

教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること

【分析の手順】

・教育課程方針において、分析項目本文の①から③の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。

分析項目６－２－２

教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること

【分析の手順】

・教育課程の編成及び実施の内容が、学位授与方針に定める獲得が期待される能力を学生が獲得できるものとなっているかを確認できるだけの整合性を有していることを確認する。

法令改正を踏まえた機構による認証評価３巡目における取扱い

NIAD-QE

◆ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを(観点による分析を求めることにとどまらず)教育課程に関する基準６－１、６－２で扱う。ただし、アドミッション・ポリシーについては、募集の単位と教育課程とがかならずしも一致していない大学があることから、基準５－１（機関別の事項）で扱う。

◆「定めてあるか否か」を確認するだけでなく、施行規則が求める条件を備えているかを分析し、基準について判断する

⇒ 後に紹介する２大学はこの点で優れていると判断している。

法令改正を踏まえた機構による認証評価３巡目における取扱い

◆ディプロマ・ポリシーと他のポリシーとの論理的関係を重視して分析することとして、分析の順序も配慮する。ただし、「一貫性に意を用いているか」は判断が難しいので、一貫性があるか、整合的であるかを分析する。

◆したがって、これらの点を確認できない場合には、改善を要する点を指摘し、該当基準を満たしていないと判断する。

◆また、施行規則は学士課程と大学院課程とを区別して扱っているが、機構の「大学評価基準」では区別せず、すべての教育課程について３つのポリシーが適切に定めてあることを求めこととした。

３つのポリシーの策定・公表状況等に関する優れた点

平成29年度 大学機関別認証評価　評価結果より

【富山大学】

・３つのポリシーが学位授与方針を軸として極めて整合的に構築

○すべての学部にわたる全学的な学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、学生が身に付けるべき知識・能力として、幅広い知識、専門的学識、問題発見・解決力、社会貢献力、コミュニケーション能力の５項目を設定している。この全学的方針に基づき、各学部又は学科が、これら５項目をそれぞれさらに具体化する形で達成目標と指標を明確に定め、それを当該学部・学科の学位授与方針としている。さらに、学位授与方針に明示したこれら５つの能力に対応させて、入学時に求める資質・能力を示す入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定するとともに、５つの能力のそれぞれを身に付けるための学修内容・学修方法・学修成果の評価方法を定めた教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を策定している。このように、３つの方針、及び全学の方針と学部・学科の方針とが、５項目の能力を軸に極めて整合的に構築されている。

【琉球大学】

・URGCC（琉大グローバルシティズン・カリキュラム）に定める学習教育目標に対する学習到達度についての全学版ルーブリックを策定し、更に学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針の対応関係を示したカリキュラムマップを作成

○ＵＲＧＣＣ（琉大グローバルシティズン・カリキュラム）の７つの学習教育目標に対する学習到達度の評価基準を観点ごとに分け、それぞれに到達すべき段階を具体的な指標で記述し、尺度で示した全学版ルーブリックを策定するとともに、学士教育プログラムごとに学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針の対応関係を示したカリキュラムマップを作成し、整合性・一貫性を確認している。

３ポリシーの策定について　富山大学

大学改革支援・学位授与機構からの質問
Q.１　平成29年度に実施した認証評価において、優れた点として「学士課程の３つのポリシーの策定、公表」を指摘している。この評価結果について、どのような分析をされたか

以下の点が評価されたものと考えている。

・３つのポリシーが一貫性・整合性あるものとして策定されていること。

・学位授与方針のうち「学生が身に付けるべき知識・能力」として，全９学部に共通した５つの能力（幅広い知識，専門的学識，問題発見・解決力，社会貢献力，コミュニケーション能力）を設定し，これを基に，各学部において達成目標と指標を明確化したこと。

・教育課程編成方針及び入学者受入方針について、学位授与方針で設定した５つの能力にそれぞれ対応するよう，項目毎に定めたこと。

・全学のポリシーと学部・学科の３つのポリシーの関係性を、１つのシート上で分かりやすく明示したこと。

３ポリシーの策定について　富山大学

Q.２　策定の背景、経緯について(法令の改正のほか、学内ではどのようなことが重要な論点となっていたか)

本学の３ポリシーについては，これまでも策定していたものの，以下の課題等から，全面的な見直しの実施に至った。

＜策定前の課題＞

・抽象的で形式的な記述となっており，内容を具体化する必要があった。

・３ポリシーの相互の関連性が弱く，一体的に策定されていなかった。

・全学の統一的な方針が不明確で，学部毎にポリシーを策定していた。

・学位授与方針においては，学生が身に付けるべき資質・能力の目標が不明確だった。

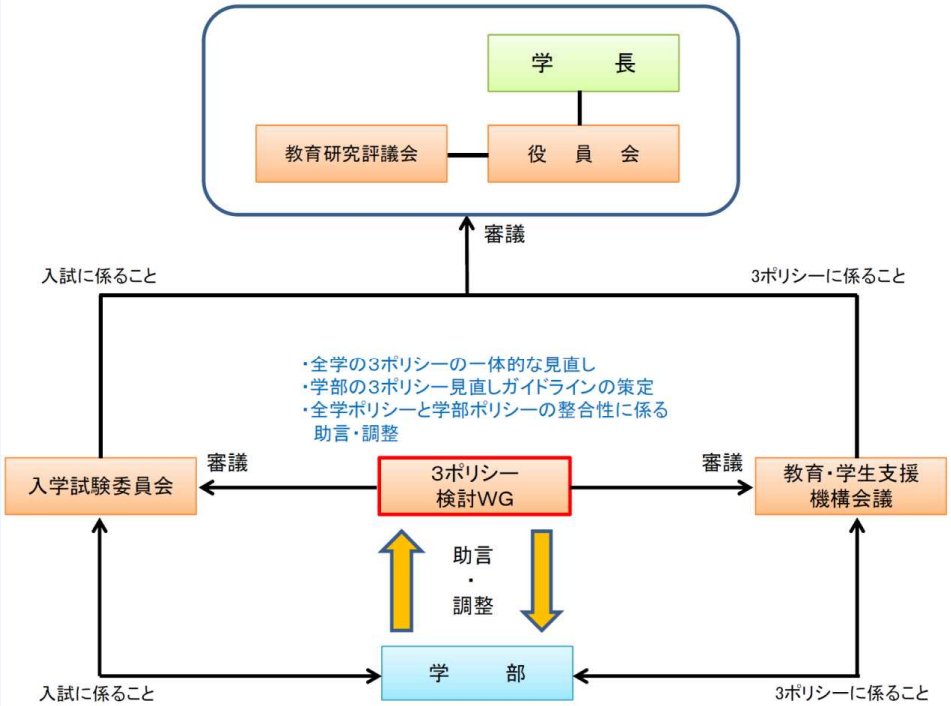
・アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法との関係性が不明確だった。

３ポリシーの策定について　富山大学

Q.３　どのような学内体制・手順によって検討が行われたのか。また、どのようなリーダーシップの下で検討が行われたのか

教育担当理事の下で，各学部長を構成員とする「３ポリシー検討WG」を中心に原案を作成し，学部では，学部長のリーダーシップにより調整を進め，関係会議において検討（平成28年６月～平成29月６月）を重ねた。

３ポリシー見直し検討体制イメージ図



３ポリシーの策定について　富山大学

Q.4　策定過程においてどのような困難があり、それをどのように克服したのか

３ポリシー策定の過程における諸課題について，以下のとおり対応した。

・３つのポリシーの一貫性及び整合性をどのように図るか。

→各ポリシーに明記すべき内容を一つのシートにまとめ，そのシートにより一貫性及び整合性を図りつつ，DP⇒CP⇒AP の順に策定した。

・同一学位でも学科によりカリキュラムが異なる場合，CPの策定が困難。

→DPに明記する能力は学位プログラム単位とし，対応するCPは学科の独自性を考慮し，学科単位も可とした。

・見直した３ポリシーをどう実質化するか。

→３ポリシーの策定は，各学部長を構成員とする「検討WG」において検討し，それぞれの学部でポリシーに関する相互理解を図るとともに，随時，検討の進捗状況を関係会議等で報告し，情報の共有を図った。

人文学部（人文学科）の３つのポリシー 富山大学

人文学部（人文学科）の3つのポリシー　　【 学士（文学） 】

大学の目的 （学則 第3条）	学部（学科）の教育研究上の目的 （学部規則等から抜粋）
本学は，地域と世界に向かって開かれた大学として，生命科学，自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い，人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し，地域と国際社会に貢献するとともに，科学，芸術文化，人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。	本学部は，人類の精神的遺産を継承し発展させ，国内外の現代的諸問題に対する深い洞察力を育成し，もって地域社会・国際社会に貢献することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【卒業認定・学位授与方針】 人文学部は，人類の精神的遺産を継承し発展させ，国内外の現代的諸問題に対する深い洞察力を育成し，もって地域社会・国際社会に貢献することを理念とする。この理念の下，価値観が多様化し不確実性が増大する現代にあって，ものごとを批判的に受け止め，主体的に生き抜く力と，自らと他者のために，より良い社会を作り出していく力を備えた人材を育成することを目標とする。 本学部では，この理念と目標に基づき，幅広い教養と人文学に関する専門的知識を修得し，人間や社会に関わる課題を自ら発見し，他者と協働して解決できる創造力，責任感，及びコミュニケーション能力を身に付けた者に，学士（文学）の学位を授与する。	【教育課程編成方針】 人文学部では，卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる5つの能力を学修するために，人文学の教育課程を体系的に編成する。 【教育課程実施方針】 ・様々な観点から人間に対する理解を深め，自立した市民として現代を生き抜く知見を身に付けるために，人文学の入門科目とともに教養教育科目を実施する。 ・多様な集団・組織の中で意思の疎通を図り，豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていくことができるように，1年次に基礎ゼミナール，人文学の入門科目を実施する。 ・社会の中で自分の果たすべき役割を認識して積極的に行動し，また，他者に対する責任も果たすことができるように，2年次以降，演習，実習・実験等の専門教育科目を実施する。 ・人文学の研究を通して人間の在り方を探求するとともに，ものごとを多面的に捉える柔軟な思考力，幅広い視野と国際感覚を身に付けた市民・職業人として行動することができるように，2年次以降，講義，講読，演習等の専門教育科目を実施する。 ・人文学研究に必要な基礎的スキルを修得し，人間や社会に対する深い洞察力や諸事象を多面的にとらえる柔軟な思考力を身に付け，新しい知見や価値を生み出せるように，4年次に卒業研究指導を行う。	【入学者受入れ方針】 人文学部は，次のような入学者を求める。 ・人文学を幅広く，深く学ぶために必要な基礎的能力を持って いる人 ・人文学諸分野に知的関心を持ち，人間についての理解を深めたいと考えている人 ・異文化を理解し，多文化共生社会の中で他者と豊かな関係を築きながら自己の成長を目指す人 ・柔軟な思考力，幅広い視野と国際感覚を身に付け，地域社会や国際社会に貢献する市民となることを目指す人 【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】 一般入試（前期日程） 大学入試センター試験では，高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し，人文学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を広く備えた人を選抜する。 個別学力検査では「国語」と「外国語(英語)」を課し，人文学部で学ぶために必要な読解力と表現力を評価する。 一般入試（後期日程） 大学入試センター試験では，高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し，人文学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を備えた人を選抜する。 個別学力検査では「小論文」を課し，論理的思考力と文章表現力を評価する。 特別入試（推薦入試） 大学入試センター試験では，高等学校卒業レベルの基礎学力を評価するとともに，「小論文」を課し，論理的思考力と文章表現力を評価する。 特別入試（帰国生徒入試，社会人入試） 「外国語(英語)」と「小論文」を課し，人文学部での学修に必要な読解力や論理的思考力，文章表現力などをみる。その他に，「面接」で志望動機・学修意欲なども評価する。

富山大学資料：2枚目

人文学部（人文学科）の３つのポリシー 富山大学

			である。
【学修成果の到達目標】		【学修内容，学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
幅広い知識	【学修成果】 自然・社会・文化・人間について幅広く普遍的な知識を身に付けている。 【到達指標】 教養教育科目及び人文学部における多様な分野の専門教育科目の単位を修得している。	【学修内容】 教養教育科目において人文科学，社会科学，自然科学の諸分野を幅広く学ぶと同時に，専門入門科目において多様な人文学の領域に触れる学修を実施する。 【学修方法】 基礎ゼミナールにおける少人数指導，複数の専門入門科目への参加の指導。アクティブラーニングを取り入れた教育の実施 【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。	【求める資質・能力】 人文学を始め大学において幅広く学ぶために必要な基礎学力
専門的学識	【学修成果】 人文学の知の遺産を継承し，人間と社会について，文化的多様性と歴史性を踏まえた深い洞察力を身に付けている。 【到達指標】 自らの専門分野に関する専門的知識と研究方法を身に付けるに十分な専門教育科目の単位を修得している。	【学修内容】 ２年次から専門を選択し，専門分野の講義・演習・実習・実験等の専門教育科目の履修と教員による指導を通じて，専門的学識を集中的に深く身に付ける学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導，卒業論文の作成の指導 【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査によって評価する。	【求める資質・能力】 人文学諸分野に知的関心を持ち，人間についての理解を深めたいという関心を持てること。
問題発見・解決力	【学修成果】 人間や社会に関わる課題を自ら見つけ出し，調査・分析や考察・討論などに基づいて，自ら解決する能力を身に付けている。 【到達指標】 自ら見つけ出した課題に基づいて，調査・分析や考察・討論を踏まえて，明瞭かつ説得力のある結論に至る卒業論文を完成させている。	【学修内容】 人間や社会に関わる課題を発見し，解決に導くために，調査，分析し，思考，表現する力を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導，卒業論文の作成と指導 【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査によって評価する。	【求める資質・能力】 地域社会や国際社会が抱える問題を適切に認識し，可能な解決や改善を考える能力を磨くことに関心を持てること。
社会貢献力	【学修成果】 社会における役割を自ら見つけ出し，責任を持って取り組んでいくことによって，他者と協働する能力を身に付けている。 【到達指標】 自らの責任を果たしつつ他者と協働して学修・研究に取り組むとともに，その学修・研究成果を社会に還元することができる。	【学修内容】 社会の文化的多様性と歴史性を学び，異なる背景を持つ人々と協働し，地域と国際社会に貢献する視野を養う学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導 【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。	【求める資質・能力】 自らも社会の一員として，地域社会が抱える問題に対して貢献したい，あるいは多文化社会の中で他者との豊かな関係を築くことに貢献したいという意欲を持てること。
コミュニケーション能力	【学修成果】 自ら積極的に情報発信するとともに，他者の考え方を理解し，多文化共生社会を自立した市民として生きる能力を身に付けている。 【到達指標】 異なる社会的・文化的背景を持つ人々との，意思疎通を可能にする，多様な言語や文化についての知識や能力を身に付け，協働ができる。	【学修内容】 異文化コミュニケーション能力を含め，他者と的確に情報を共有し発展させるスキルを養う学修を実施する。 【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導 【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。	【求める資質・能力】 地域社会における多様な考え方との対話において，あるいは異文化間の交流において必要となるコミュニケーション能力を示す文章読解力と，記述による表現力を持っていること。

富山大学資料：2枚目

理学部の３つのポリシー

富山大学

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー					アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容，学修方法及び学修成果の評価方法】					【求める資質・能力】
		数学科	物理学科	化学科	生物学科	生物圏環境科学科	
幅広い知識	【学修成果】 自然科学のみならず，人文科学や社会科学に関する広い知識を修得し，それを自立した市民として社会に活かす能力と，生涯にわたって学修意欲を持って自己研鑽する能力を身に付けている。 【到達指標】 科学の様々な分野を俯瞰する能力，文化，社会に関する広い知識，文化の多様性や異文化の価値を理解する能力，生涯学修力	【学修内容】 自然科学の諸分野に関する基礎知識，人文・社会科学に関する基礎知識，外国語・情報処理に関する基礎知識，保健体育の基礎知識や実技など，様々な分野の知識・考え方を修得し，物事を多面的に捉える能力の修得する。	【学修内容】 教養教育科目を履修することにより，幅広い知識を身に付ける。	【学修内容】 自然科学のみならず人文科学や社会科学に関する広い知識を修得し，それを自立した市民として社会に活かす能力と新たな知識獲得のための学修を継続できる能力を養う。	【学修内容】 教養教育科目及び共通基礎科目として，人文・社会科学科目，外国語科目，保健体育科目，情報処理などを，定められた単位数の範囲内で自由に選択して学修する。富山の自然環境及び生物学に対する関心を高め，大学での生物学学修の動機付けを行うために，専門基礎科目として，基礎生物学セミナーを1年次の必修科目として学修する。さらに，自然科学（理学）の幅広い基礎知識を修得するために，専門基礎科目として，地球生命環境理学を必修科目として学修するとともに，数学，物理学，化学，地球科学，生物圏環境科学などに関する科目を，定められた単位数の範囲内で自由に選択して学修する。	【学修内容】 環境科学に関連した諸課題へのアプローチに資するために，自然科学のみならず人文科学系，社会科学系，医療・健康科学系，総合科目系，外国語系，保健・体育系及び情報処理系の教養教育科目並びに専門基礎科目の学修を通し，視野の広い人間性豊かな教養を身に付ける。	【求める資質・能力】 高等学校までの基礎学力を持ち，自然科学のみならず，人文科学や社会科学に関する広い知識を修得しようとする意欲を持つ人
		【学修方法】 人文・社会科学科目，医療・保健科学系科目，総合科目系科目，外国語系科目，保健体育系科目，	【学修方法】 自然科学のみならず人文科学や社会科学に関する広い知識を修得するため，在学中に教養教育科	【学修方法】 自然科学のみならず人文科学や社会科学に関する広い知識を修得するため，在学中に教養教育科	【学修方法】 基本的に講義で行われる。主体的な学びの力を高めるため，アクティブ・ラーニングを取り入れた	【学修方法】 人文科学系，社会科学系，医療・健康科学系，総合科目系，外国語系，保健・体育系，情報処理系	

富山大学資料：３枚目

シラバス

富山大学

授業科目名(英文名)／Course Title	有機化学Ⅰ／Organic Chemistry Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	■■ ■■(薬学部), ■■ ■■(薬学部)		
授業科目区分／Category	専門教育科目(必修) 化学系		
COC＋科目／COC+Course	-	授業種別／Type of class	講義科目
開講学期曜限／Period	2018 年度／Academic Year 前期・火曜１限 前期・金曜２限	対象所属／Eligible Faculty	薬学科、創薬科学科
時間割コード／Registration Code	■■■■■■■■	対象学年／Eligible grade	2 年
ナンバリングコード／Numbering Code	■■■■■■■■	単位数／Credits	2 単位
オフィスアワー(自由質問時間)／Office hours	■■ ■■(事前に電話，メール等で連絡してください), ■■ ■■(訪問する際は，事前にメールや電話で連絡してください。)		

リアルタイム・アドバイス／Real-time advice 更新日

授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標)／Course Objective

医薬品の大部分は有機化合物であることから，医薬品の開発，創製からその生体への作用や使用法の理解のためには，有機化学を理解する必要がある。そのためにも，頻出する有機化合物の慣用名に習熟するとともに，含まれる各種官能基の化学的特性を会得することが重要である。本講義では，医薬品のリード化合物として重要であるハロゲン化アルキル，多くの医薬品に含まれるアルコール，エーテル，エポキシド，アミン，チオール，カルボン酸，カルボン酸誘導体の特性を学習する。有機化学は実験によって見いだされた事実を集めた膨大な知識の集約である。これらをすべて暗記することは不可能であるが，いくつかの理論をもとに体系化されており，それらの理解により有機化学全体の理解が容易になる。本講義では，基礎となる電子論を中心に解説して，有機化学の理解に努める。

達成目標／Course Goals

1）有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し，説明できる。
2）求核置換反応（SN1 および SN2 反応）の機構について，立体化学を含めて説明できる。
3）ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し，反応の位置選択性（Zaytsev 則）を説明できる。
4）アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し，説明できる。
5）フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し，説明できる。
6）エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し，説明できる。
7）エポキシド類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。
8）アミン類の基本的性質と反応を列挙し，説明できる。
9）カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し，説明できる。
10) カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物，酸無水物，エステル，アミド）の基本的性質と反応を列挙し，説明できる。

授業計画(授業の形式、スケジュール等)／Class schedule

第１回：ハロゲン化アルキルの構造・命名・反応性
第２回：ハロゲン化アルキル反応１
第３回：ハロゲン化アルキル反応２
第４回：ハロゲン化アルキル反応３
第５回：ハロゲン化アルキル反応４
第６回：ハロゲン化アルキル反応５
第７回：置換反応および脱離反応の合成化学への応用
第８回：第１回～７回のまとめ（演習）
第９回：アルコールの反応１

富山大学資料：４枚目

３つのポリシーの策定について

琉球大学

大学改革支援・学位授与機構からの質問

Q.１　平成29年度に受けられた認証評価において、貴大学の学士課程の３つのポリシー策定、公表について優れた点を指摘いたしましたが、この点を優れていると評価された結果について貴大学においてどのように理由等を分析されているか。

以下の点が評価されたものと考えている。

・URGCCの合言葉のもと、教育改善の雰囲気が醸成されたこと

・全学学士教育プログラム委員会が機能したこと

・一貫性・整合性を担保するため、学士教育プログラムごとに３つのポリシーを１枚のワークシートにまとめ、策定したこと

・その作業を毎年行い、常に確認していること

・DPとして全学共通の７つの目標を設定し、これをもとにメタ・ルーブリックを策定し、学生の到達すべきレベルを明確化したこと

・調査体制（Web調査等）が整いエビデンスを蓄積していること

３つのポリシーの策定について

琉球大学

Q.２　策定にあたっての背景、経緯がどのようなものであったか。

URGCC導入前は主に以下のような課題があり、質保証の観点から全面的に見直す必要があった。

・APだけが先行して公表されていた

→年度ごとのワークシートを作ることにより解決

・DPに相当するものは各学部が自由に設定しており、全学的な統一感がなかった

→全学共通の７つの目標及び対応関係表を作ることにより解決

・APは入試委員会、DPは教育委員会といったように、担当が縦割のため、対応関係が不明瞭であった

→窓口を学士教育プログラム委員会に一本化することにより解決

３つのポリシーの策定について

琉球大学

Q.３　どのような学内体制・手順によって検討が行われたのか。また、どのようなリーダーシップの下で検討が行われたのか。

・学長のリーダーシップはもちろんのこと、全学学士教育プログラム委員会が牽引役となったこと

・学士教育プログラムが設置されたこと

・全学学士教育プログラム委員会の運営を支援するため、専門の部署が設置されたこと

→URGCC推進支援室（現グローバル教育支援機構開発室）

（室長１名、研究員１名、支援員１名）

・業務は議題の調整から委員への連絡、資料の印刷まで

３つのポリシーの策定について

琉球大学

Q.４　策定の過程においてどのような困難に直面し、それはどのように克服したのか。

・３つのポリシーの年度のずれについて

本来の策定順はDP→CP→AP

しかし実際はAP→DP→CP

平時は問題がないが改組などがあるときは特に重要

現在は年間計画で対応

平成31年度に実施する大学機関別認証評価等に関する自己評価担当者等に対する研修会資料

琉球大学における質保証システムの構築
～URGCCとメタ・ルーブリックを中心に～

琉球大学グローバル教育支援機構

© Copyright 2018 Global Education Institute
at University of the Ryukyus.

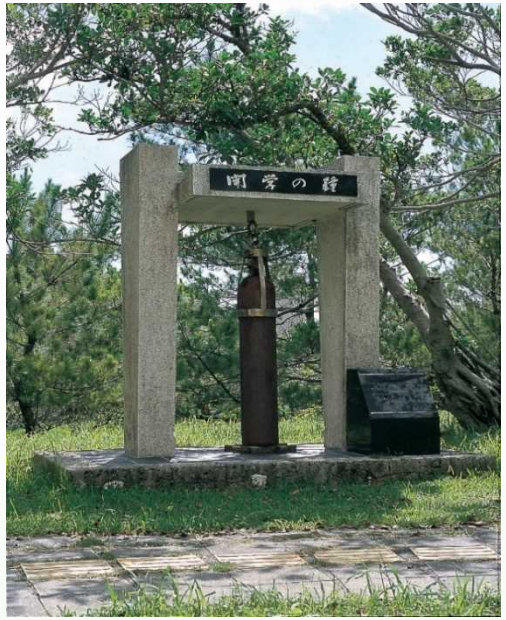
はじめに～認証評価結果

URGCC（琉大グローバルシティズン・カリキュラム）の７つの学習教育目標に対する学習到達度の評価基準を観点ごとに分け、それぞれに到達すべき段階を具体的な指標で記述し、尺度で示した全学版ルーブリックを策定するとともに、学士教育プログラムごとに学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針の対応関係を示したカリキュラムマップを作成し、整合性・一貫性を確認している（平成29年度実施大学機関別認証評価評価報告書から）。

1．琉球大学の概要
Land-Grant University～地域に貢献する大学

第二次世界大戦後、アメリカ統治下の沖縄で、向学の志に燃える高校生、沖縄の復興を教育に託した保護者、さらにはハワイの沖縄県人会などの熱望により、ミシガン州立大学をモデルとして、「地域に貢献する大学　Land-Grant University」の精神の下、1950年5月に設立。

もともとFDに熱心なアメリカ型風土



開学の鐘

開学記念式典の様子

7学部9研究科の総合大学

人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、理学部、
医学部、工学部、農学部 （H30年5月1日現在、在籍者数7,230名）

人文社会科学研究科、観光科学研究科、教育学研究科、
医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、農学研究科、
法務研究科、鹿児島大学大学院連合農学研究科
（H30年5月1日現在、在籍者数1,125名 ※連合大学を除く）

千原キャンパス

上原キャンパス

2. University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum（URGCC）とは？

キャッチフレーズ！

URGCCとは、21世紀型市民を養成するために琉球大学が平成24年度から導入した学士としての質を保証するための取組の総称。全学共通の7つの目標を定めている。

表１　７つのURGCC学習教育目標

自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調･協働して行動できる。
コミュニケーション･スキル	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
問題解決力	批判的･論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
専門性	専攻する学問分野における思考方、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。

3. URGCC関連委員会・会議

平成21年度（2009年度）

・ 琉球大学グローバルシティズン・カリキュラム（URGCC）検討委員会　発足

平成22年度（2010年度）

・ URGCC推進支援室（現在：開発室）　設置

平成23年度（2011年度）

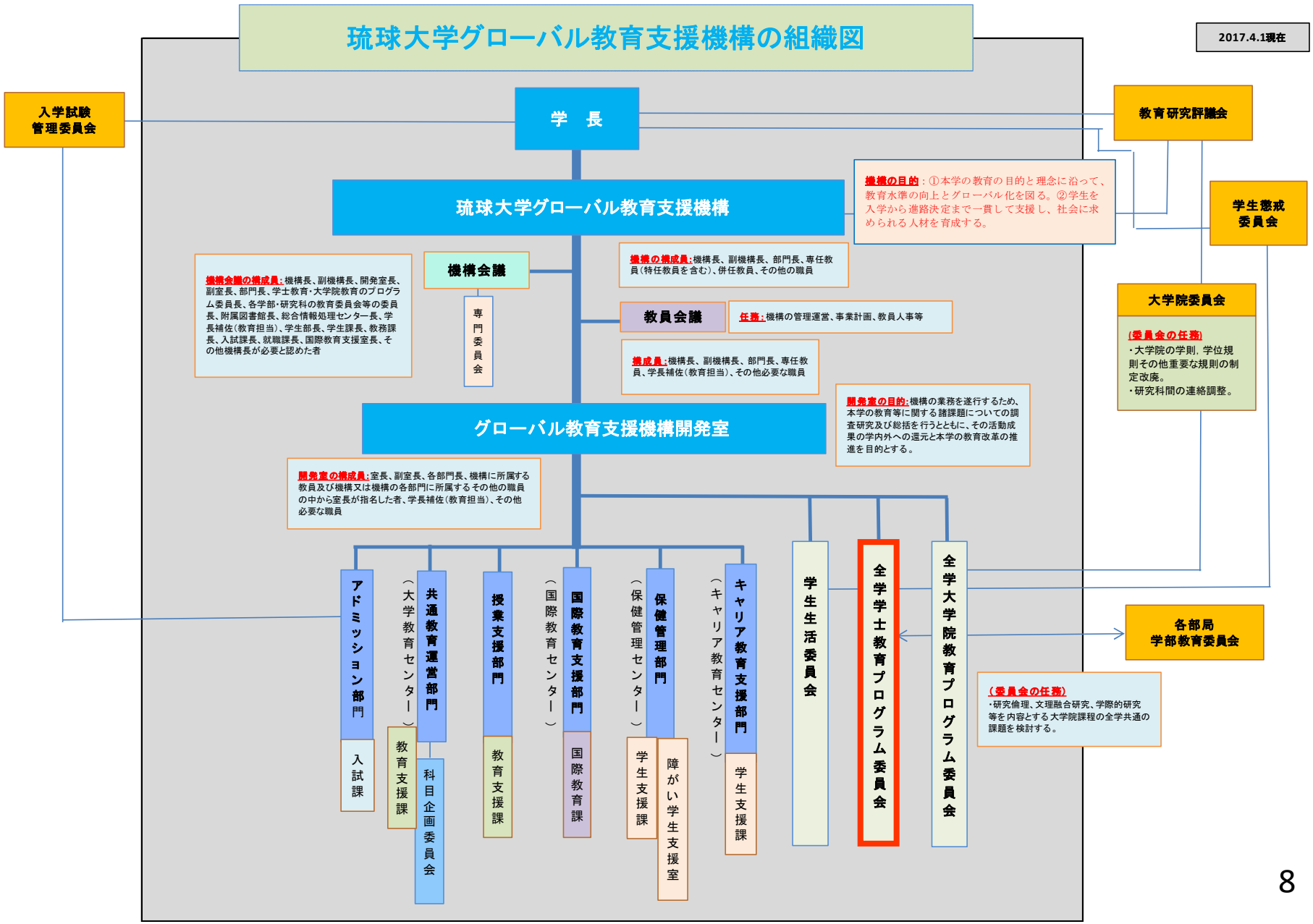
・ 学士教育プログラム代表者連絡・調整会議　発足

平成24年度（2012年度）

・ 全学学士教育プログラム委員会

URGCCの導入開始

グローバル教育支援機構　組織図



委員会名簿

※学士教育プログラム数
計32（平成30年度）

琉球大学全学学士教育プログラム委員会委員

平成29年4月1日

No.	所属部局	職　名	氏　名	任　期	内線番号	区　分	備　考
1	グローバル教育支援機構	副機構長				1号委員	委員長、開発室長
2	〃	准教授				2号委員	共通教育運営部門長
3	〃	准教授				3号委員	副委員長、授業支援部門長
4	〃	准教授				4号委員	副委員長
5	法文学部	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	法学　学士教育プログラム
6	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	経済学　学士教育プログラム＊
7	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	政治･国際関係　学士教育プログラム
8	〃	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	人間行動　学士教育プログラム
9	〃	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	社会学　学士教育プログラム
10	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	地理歴史人類学　学士教育プログラム
11	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	琉球アジア文化　学士教育プログラム
12	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	英語文化　学士教育プログラム＊
13	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	ヨーロッパ文化　学士教育プログラム
27	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	電子情報通信　学士教育プログラム
28	〃	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	社会基盤デザイン　学士教育プログラム
29	〃	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	建築学　学士教育プログラム
30	〃	教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	知能情報　学士教育プログラム
31	農学部	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	亜熱帯地域農学　学士教育プログラム
32	〃	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	亜熱帯農林環境科学　学士教育プログラム
33	〃	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	地域農業工学　学士教育プログラム
34	〃	准教授		29.4.1～31.3.31		5号委員	亜熱帯生物資源科学　学士教育プログラム

＊は夜間主コースを含む

委員会スケジュール

○全学学士教育プログラム委員会スケジュール（平成29年度）

	日時	会場	議題等
第１回	※４月12日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【報告事項】 1　今年度の委員について 2　昨年度までの活動について 3　今年度の活動と開催日程について 4　３つのポリシーの公表について 【審議事項】 1　規程の改定について 2　WGの設置について
第２回	５月	メール会議	【審議事項】 1　WGのメンバーについて
第３回	６月７日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【報告事項】 1　ＷＧメンバーについて（第２回メール会議の報告） 2　シラバス記載状況の報告（平成29年度前学期） 【審議事項】 1　年間スケジュールについて 2　新旧プログラムの取り扱いについて
第４回	７月５日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【審議事項】 1　７つのURGCC学習教育目標の見直しについて 2　規程の一部改正について
第５回	８月２日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	グローバル教育支援機構主催　ＦＤ　授業技法ワークショップ「ルーブリックを作ろう」
	９月	〈開催しない〉	夏季休暇
第６回	10月４日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【審議事項】 1　平成30年度学士教育プログラムの名称、組織の変更について 2　３つのポリシーの考え方と教育改善・評価のためのガイドラインについて 【報告事項】 1　規程の一部改正について 2　共通教育科目におけるキャリア関係科目のURGCC学習教育目標について 3　平成29年度前学期共通教育等科目シラバス記載状況について 4　シラバスの登録について 5　琉球大学の教育改善のための学生調査2017について
第７回	11月１日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【審議事項】 1　平成30年度学士教育プログラムの名称及び組織の変更について 2　７つのURGCC学習教育目標の見直しについて 【報告事項】 1　３つのポリシーの考え方と教育改善・評価のためのガイドライン（案）について（回答_1020締切） 2　学生調査結果の活用について

第８回	※12月13日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【審議事項】 １　３つのポリシーの考え方と教育改善・評価のためのガイドラインについて ２　７つのURGCC学習教育目標の見直しについて 【報告事項】 １　小冊子原稿等の提出について ２　学生調査の結果の活用について ３　大学機関別認証評価における訪問調査時の改善を要する点について ４　シラバス記載状況の報告（平成29年度後学期） ５　その他
第９回	※１月10日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【審議事項】 １　小冊子原稿について（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾚﾍﾞﾙ_1228締切） ２　評価基準表を用いた成績評価の実施について 【報告事項】 １　「URGCCマトリクス」、「カリキュラムマップ」、「ワークシート：AP･DP･CPの対応関係」の提出状況について（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾚﾍﾞﾙ_1228締切）
第10回	２月７日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【審議事項】 １　平成31年度入学者選抜アドミッション・ポリシー策定のための「ワークシート：AP・DP・CPの対応関係」の見直しについて（依頼） ２　琉球大学URGCCの基本方針（案）について ３　URGCCメタ・ルーブリックの改定（案）について 【報告事項】 １　「URGCCマトリクス」、「カリキュラムマップ」、「ワークシート：AP・DP・CPの対応関係」及び「平成30年度版URGCC小冊子原稿」の提出状況について（最終提出 学部レベル_0125締切） ２　ＦＤ：学生調査結果の活用報告（農学部_鹿内委員） ３　グローバル教育支援機構シンポジウムについて
第11回	３月７日（水） 14:40～16:10	共通教育棟1号館 大会議室	【審議事項】 １　平成31年度入学者選抜アドミッション・ポリシー策定のための「ワークシート：AP・DP・CPの対応関係」の見直しについて（提出期限0302締切） 【報告事項】 １　平成29年度評価基準表に基づく成績評価の実施について（回答0301締切） ２　今年度の振り返りと来年度の課題について ３　平成29年度後学期共通教育等科目シラバス記載状況について ４　FDワークショップの開催について

〇上記日程は、都合により変更する場合があります。
〇「※」は、定例以外の開催日程です。
〇議題等の無い場合は、休会となる月もあります。

小冊子の作成

URL　http://w3.u-ryukyu.ac.jp/daikyo-c/urgcc/urgcc_office/reports.html

目　次

ページ

URGCC（琉大グローバルシティズン・カリキュラム）とは？ …… 2
学部・学科等に共通の教育目標 …… 6
人文社会学部
　法学　学士教育プログラム …… 8
　政治・国際関係学　学士教育プログラム …… 10
　哲学・教育学　学士教育プログラム …… 12
　心理学　学士教育プログラム …… 14
　社会学　学士教育プログラム …… 16
　歴史・民族学　学士教育プログラム …… 18
　言語学　学士教育プログラム …… 20
　文学　学士教育プログラム …… 22
国際地域創造学部
　観光地域デザイン　学士教育プログラム …… 24
　経営学　学士教育プログラム …… 26
　経済学　学士教育プログラム …… 28
　国際言語文化　学士教育プログラム …… 30
　地域文化科学　学士教育プログラム …… 32
　国際地域創造学部 カリキュラム概念図 …… 34
教育学部
　学校教育　学士プログラム …… 36
理学部
　数理科学　学士教育プログラム …… 38
　物理系　学士教育プログラム …… 40
　地学系　学士教育プログラム …… 42
　化学系　学士教育プログラム …… 44
　生物系　学士教育プログラム …… 46
医学部
　医学　学士教育プログラム …… 48
　保健学　学士教育プログラム …… 50
工学部
　機械工学　学士教育プログラム …… 52
　エネルギー環境工学　学士教育プログラム …… 54
　電気システム工学　学士教育プログラム …… 56
　電子情報通信　学士教育プログラム …… 58
　社会基盤デザイン　学士教育プログラム …… 60
　建築学　学士教育プログラム …… 62
　知能情報　学士教育プログラム …… 64
農学部
　亜熱帯地域農学　学士教育プログラム …… 66
　亜熱帯農林環境科学　学士教育プログラム …… 68
　地域農業工学　学士教育プログラム …… 70
　亜熱帯生物資源科学　学士教育プログラム …… 72
琉大グローバルシティズン・カリキュラム（URGCC）の基本方針及び別紙 …… 74
琉球大学の３つのポリシー
　（学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、
　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー））…… 78
琉球大学憲章 …… 81

物理系　学士教育プログラム

1. 授与する学位の種類

学士（　理学　）

2. 学習目標（学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー）

物理学は、自然のさまざまな振る舞いの奥にある基本法則を明らかにし、それに基づいてミクロな世界から宇宙までの自然現象を統一的に理解しようとする学問であり、現代科学を支える基礎であり、私たちの社会基盤を支える基礎学問です。物理学を継承し、持続的に発展させて人類の知の最前線を拡大することが我々に与えられた使命です。

物理学を体系的に学ぶことによって専門的知識や考え方を身につけ、科学技術の研究や発展に貢献できる人、社会や学問の世界において自立できる人、また、学んだことを発展させて人類の文化に貢献できる人を目指します。さらに、普遍的知識、柔軟な論理的思考力、問題解決能力、普遍的考え方を身につけ、社会の変化・発展に柔軟に対応でき、人類の幸福と社会の進展に貢献できる人を目指します。

具体的には、①力学的な現象や電磁気学的な現象、原子などのミクロな振舞いを基礎法則に基づいて理解できる能力、②基本的な計測技術、計算機利用技術、③基本的なプレゼンテーション能力、④現代物理学の知識に基づいて自然現象や物質の性質を探求する能力、などを身につけることを目指します。

3. 学習の内容・方法（教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー）

物理系は大別して、理論的な立場から物質と宇宙の根源に迫る「基礎物理学」、 固体、液体、気体などの物質の特異性と多様性を理論的に探究する「物性理論物理学」、実験的に探究する「物性実験物理学」の３分野からなります。これらの３分野において、個性や特性に応じた学習を行います。

具体的には、（１）「共通教育」では社会人として必要な教養を身につけ、人間としての視野を広げると共に専門を学ぶための基礎力を養います。（２）１年次後期からは、専門科目として物理学の基盤をなす、力学、電磁気学、量子力学、熱力学、統計力学、物理数学、物理実験学等を学びます。（３）物理学実験、物理実験Ⅱ、物理実験Ⅲなどにより、実験技術を身につけます。計算機関連科目によってコンピューターに対する技能や知識を高めます。（４）演習科目における演習問題の解答の発表、実験科目の学期末における発表会、卒業研究の研究発表会を行うことにより、プレゼンテーション能力を身につけます。（５）３年次までに修得した基礎学力を基に４年次では、基礎物理学、物性理論物理学、物性実験物理学の３分野のいずれかの研究室に所属し、卒業研究を行います。卒業研究では、セミナーによって、その分野の物理学の知識を身につけ、研究、成果の発表、まとめを通して、論理的思考力、洞察力、発想力、独創性等を身につけます。

4. 学習教育目標の達成に向けた具体的取組

・１年次前期の「基礎ゼミ」で、対話型少人数ゼミを実施し、大学での学習に必要な聞く力、意見を述べる力、書く力の向上を促し、物理学の考え方の基礎や修学の方法を指導しています。
・高校と大学の物理・数学のギャップによってつまずかないように、両者の橋渡しをするための「物理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」という演習を主体とした授業を設置して基礎的学力の補強を図っています。

【カリキュラムの概要】

・実感を伴った物理の学習ができるように、タブレット PC を貸与してインタラクティブな物理シミュレーションで視覚的・能動的に物理概念を習得する授業形式を取り入れている科目もあります。
・実験系に進む学生がより早く専門的実験に触れることができるよう、３年次後期の「物理実験Ⅳ」で、各実験系研究室での研究内容に近い実験を行なっています。
・教員の研究内容に触れて物理を学習する刺激となるように、２年次・３年次向けに「物理学トピックス」を開講し、最先端の研究内容を紹介しています。
・学生が計画的に履修できるように履修モデルを示すとともに、卒業研究着手条件を定めて十分な学力と時間的余裕を持って卒業研究に取り組めるよう系統的に指導しています。

5. 想定される進路（主な就職先）

卒業生の進路は、大学院への進学、官庁・自治体や科学技術、教育などの分野への就職です。
【進学（大学院など）】琉球大学、北海道大学、東京大学、東京工業大学、筑波大学、横浜国立大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、愛媛大学、九州大学、熊本大学、慶応大学、総合研究大学院大学、航空大学校など
【官庁・自治体】高校教員、中学教員 **県内**：沖縄県庁、沖縄県警、総務省沖縄行政評価事務所、県内市町村役場など **県外**：気象庁、海上保安庁、警視庁、札幌市消防局、自衛隊、千葉県警など
【企業】**県内**：琉球銀行、沖縄銀行、海邦銀行、沖縄県労働金庫、日本郵便、沖縄テレビ放送、オカノ、タップ、琉球海運、サンエー、りゅうせき、エッカ石油、沖縄テクノスなど **県外**：東京電力、東芝、アルパック、大日本印刷、日立超 LSI システムズ、日立金属、東海電子、日本航空、鹿児島銀行、宮崎信用金庫、天草信用金庫、ニッコーシ、テイツー、非破壊検査、南条装備工業、地下鉄ビルディング、パナホーム、三城ホールディングス、エスワイシステム、全研本社など

4. 全学学士教育プログラム委員会の機能・特徴

- 学部の壁を取り払い「学士教育プログラム」を単位として構成
- 学士教育プログラムは入試の最小単位で設置
- 入口から出口までの責任体制が確立
- 全学的な観点から議論が可能
- 他学部がどのような改革を行っているかが可視化
- 議題は3つのポリシー、カリキュラムマップ、ルーブリック、アクティブラーニング等
- 委員会それ自体が月１回のFD研修会
- 委員がファシリテーターとなり各学部へも理念が浸透

委員会資料　1

琉球大学大学教育センターページ
URL　http://w3.u-ryukyu.ac.jp/daikyo-c/urgcc/urgcc_program/qa_program.html

サンプル：URGCCマトリクス

【学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表】

〇〇〇〇　学士教育プログラム　（●●●　コース）

	URGCC学習教育目標	自律性 自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	社会性 市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。	地域・国際性 地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	コミュニケーション・スキル 言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	情報リテラシー 幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	問題解決力 批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	専門性 専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。
学士教育プログラム学習教育目標	本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力	〇	〇	〇			〇	〇
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして、〇印を付けた理由） 大学で学ぶ意義を理解し自立的に行動する能力や21世紀型市民として、世界の多様な国や地域の歴史や伝統、文化を理解し、また、自らがよって立つ国や地域を説明し理解を求めたりすることのできる能力を身に付け、異なる歴史的・文化的背景や価値観を持つ人々と共生していくことができる能力を目指しているため。主に、共通教育科目（教養領域、総合領域）、専門基礎教育科目を履修することで身に付ける。						
	国際的な人・物・情報の流れが重要性を増した時代において、地域や世界における複雑化した問題を全人類的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力			〇	〇	〇		
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして、〇印を付けた理由） 外国語によるコミュニケーション力を核として養成し、グローバルな知識や情報を吸収、発信し、討論するための基本的な能力を身に付け、情報通信技術を駆使し、幅広い分野の情報を収集し処理・判断する能力を目指しているため。主に共通教育科目（基幹領域）を履修することで身に付ける。						
	農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力		〇	〇			〇	〇
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして、〇印を付けた理由） フィールド実習などの学部共通科目の授業を通して農学の基礎となる知識を身に付け、農業・食料・環境・資源分野の問題解決に対する責任を認識する。また、キャリア系科目を通し、地域における農学の重要性を理解し、社会の一員として地域社会の要求に対応することの重要性を実践的に理解することを目指しているため。						
	沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性をふまえて、亜熱帯の島嶼環境と調和した自然循環型農業や田園空間の創造、ならびにIT農業の技術開発やバイオマス地域循環システムの構築によって、「緑・土・水」と人間との環境創出を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして、〇印を付けた理由） 学科共通（コア）科目の履修を通し、沖縄及び亜熱帯地域の自然やこれらの地域で営まれる人間活動を理解し、農業工学の知識を活用し社会の抱える問題に取り組む能力を目指しているため。技術者倫理の受業を通し、技術者ついての倫理性を身に付ける。外国語文献講読の授業を通し、専門性を基盤とした英語語運用能力の修得を目指している。また、卒業論文を通し、問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決をすることができる能力を目指しているため。						
	社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力	〇						〇
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして、〇印を付けた理由） 幅広い分野に関心を持ちながら、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を目指しているため。主にコース提供科目から自らの目標達成のため自立的に選択科目を学習することで身に付けるため。						
	（バイオシステム工学コース）食料生産から流通・加工に係わる一連の工程のシステム化及び持続可能な再生可能エネルギーの開発や利用に関する専門的知識を理解する能力		〇			〇		〇
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして、〇印を付けた理由） レベルの高い専門知識を身に付け、専門的職業人として問題解決をすることができる能力を目指し、実験・実習系の授業を通し協働して問題解決する能力を目指しているため。また、農業情報工学等の授業を通し、情報通信技術の高度な活用を修得するため。						
	（地域環境工学コース）自然と調和した農村空間の創出及び環境に配慮した農村基盤の整備に関する技術、ならびに亜熱帯特有の自然条件の下での防災と農村地域の環境を保全する技術に関する専門的知識を理解する能力		〇			〇		〇
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして、〇印を付けた理由） レベルの高い専門知識を身に付け、専門的職業人として問題解決をすることができる能力を目指し、実験・実習系の授業を通し協働して問題解決する能力を目指しているため。また、農業情報工学等の授業を通し、情報通信技術の高度な活用を修得するため。						

琉球大学大学教育センターページ
URL http://w3.u-ryukyu.ac.jp/daikyo-c/urgcc/urgcc_program/qa_program.html

サンプル：カリキュラムマップ
【ワークシート：DP・CPの対応関係】

○○○○ 学士教育プログラム （●●● コース）

学習教育目標【A】について

ディプロマ・ポリシー（DP）

（1）学習教育目標【A】

1. 本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力

カリキュラム・ポリシー（CP）

（2）学習教育目標【A】を達成するための取組
〈授業の構成（教育内容・方法）、科目間の順次性・関連性、科目名〉

・共通教育科目（人文系、社会系、総合系）を通して21世紀型市民として、世界の多様な国や地域の歴史や伝統、文化を理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける。

・共通教育科目（人文系、社会系、琉大特色科目）を通して自らがよって立つ国や地域を説明し理解し、総合的教養人としての能力を身に付ける。

・専門基礎教育（生物、化学、物理、数学系）を通し、自然科学の基本的な事項を理解し、総合的教養人としての能力を身に付けるとともに、2～3年次以降で履修する数学・力学系の専門科目の基礎を養う。

・専門基礎教育（生物、化学、物理系）は講義の授業で理論を学修するとともに、実験を通し、理論を自然現象を体験として学修する過程を通し、2年次以降の専門科目の履修に際し、実学としての農学を現象面のみではではなく、理論としてとらえることができる素養を身に付ける。

・フィールド実習などの学部共通の専門科目を通し、農学の基礎となる知識を身に付け、21世紀市民としての食料・環境問題への責任を認識する。

・卒業論文を通し、問題解決に対する責任を認識し、知識基盤社会における21世紀市民としての責任を認識する。

（3）学習教育目標【A】を達成するために履修する科目一覧

区分（選択式）	科目番号	科目名または領域名	単位	受講年次（選択式）	学期（選択式）	授業形態（選択式）
選択必修（共通）		共通教育科目（人文系、社会系、自然系等）	20	1～3年次	前期/後期	講義
選択必修（共通）		専門基礎教育（生物、化学、物理、数学系）	12	1～2年次	前期/後期	講義+実験
必修（専門）	農共101	食・農・環境概論	2	1年次	前期	講義
必修（専門）	農共102	基礎フィールド実習	1	1年次	前期	実習
必修（専門）	地503	卒業論文Ⅰ	3	4年次	前期	
必修（専門）	地504	卒業論文Ⅱ	3	4年次	後期	

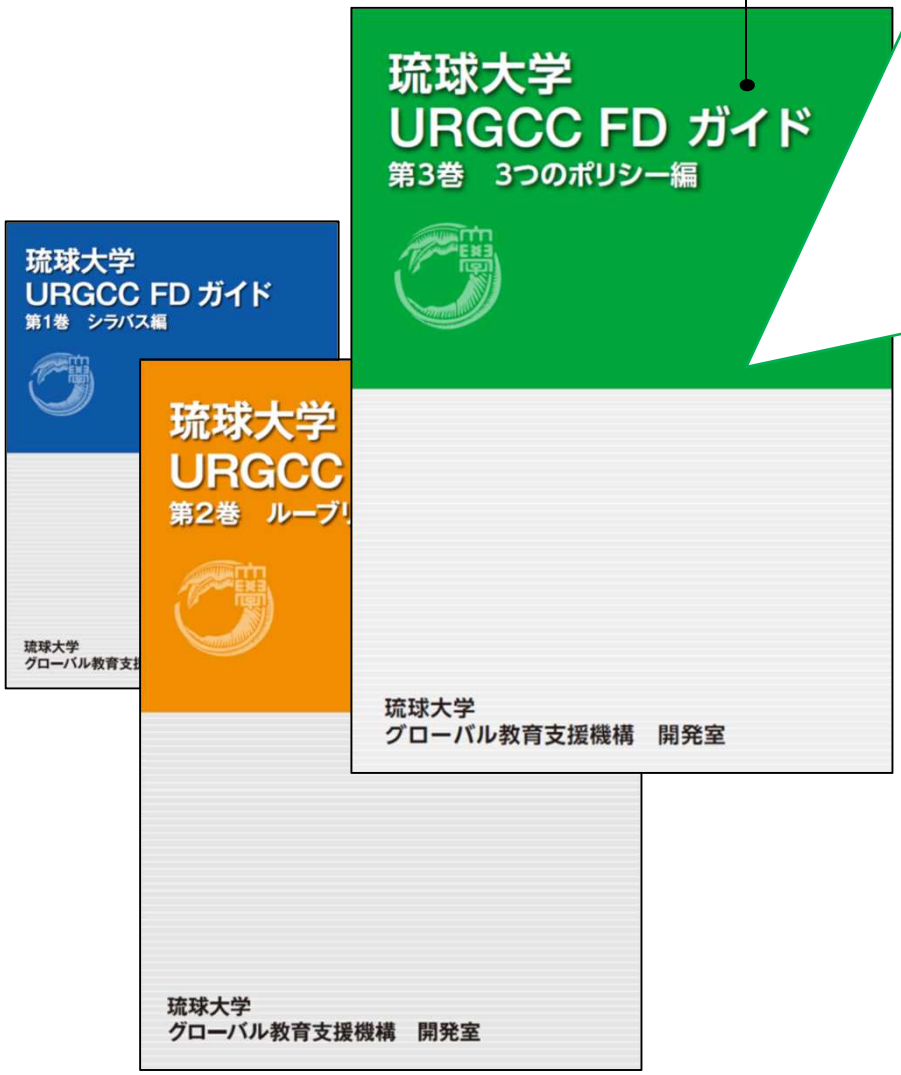
合計単位数 41

初年次 → 高年次

5. 3つのポリシー

琉球大学FDガイドページ
URL　http://w3.u-ryukyu.ac.jp/daikyo-c/urgcc/urgcc_program/pg341.html

3つのポリシーと教育改善・評価による
内部質保証の確立のためのガイドライン



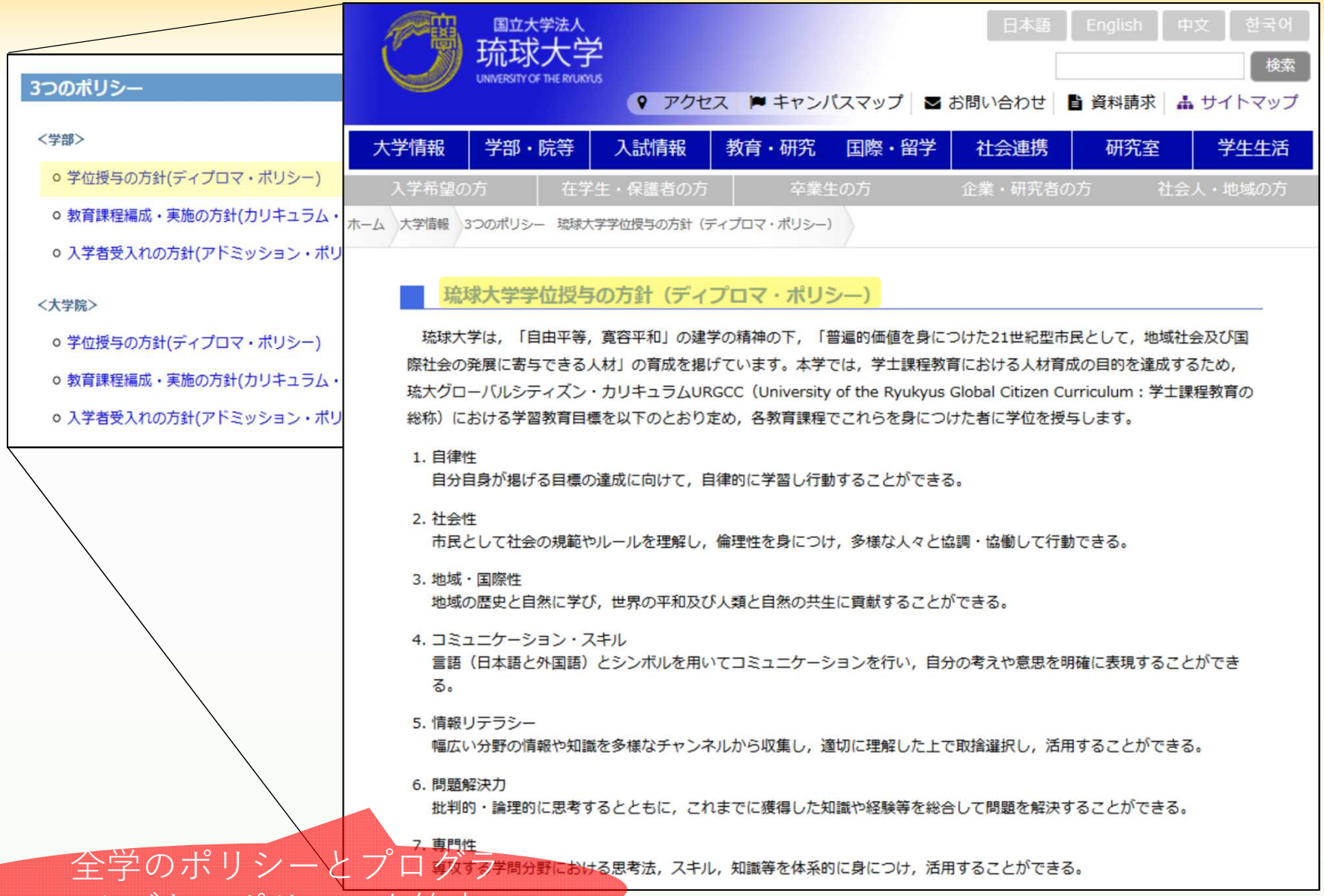
	当該年度　事項	次年度　事項	次々年度　事項
４月	○DP、CP の WEB 公開 ○URGCC カリキュラムマップ等のワークシート WEB 公開 ○URGCC 小冊子発行	○AP の WEB 公開	
５月		○AP の選抜要項等での周知	
６月	○学士教育プログラム DP、CP、AP のデータによる検証	○全学学士教育プログラム委員会で学士教育プログラムの全学的課題の検討	
７月	↓	↓	
８月	↓	↓	
９月	↓	↓	
10 月	↓	↓	
11 月		○URGCC カリキュラムマップ等のワークシート修正作業（学士教育プログラムの DP、CP 及びカリキュラムの見直し・改善）	
12 月		↓	
１月		○学士教育プログラム DP、CP 及び URGCC カリキュラムマップ等のワークシート修正版を開発室へ提出	
２月		○全ての学士教育プログラム　DP、CP、AP の全学学士教育プログラム委員会で確認	○URGCC カリキュラムマップ等のワークシート修正作業（学士教育プログラム　DP、CP、AP、カリキュラムの見直し・改善）
３月		○URGCC 小冊子印刷 ○URGCC カリキュラムマップ等のワークシート WEB 公開準備	○AP の決定

3つのポリシーの策定

- 3つのポリシーを同時に検討し整合性を担保
- これまではどうしてもAPが先行
- しかし本来はDPがまずあって、そこからCPやAPが策定されるべき
- そこで年度を揃えたワークシートを作成
- これをもとに小冊子も発行

琉球大学公式ホームページより

URL　http://www.u-ryukyu.ac.jp/



全学のポリシーとプログラムごとのポリシーを策定

委員会資料 3

サンプル：AP・DP・CPの対応関係

【ワークシート：AP・DP・CPの対応関係】

〇〇〇〇 学士教育プログラム

アドミッション・ポリシー（AP）

1. 学科等の教育理念・目的
農村環境整備と緑・土・水資源の保全と改善に貢献できる有能な人材、ならびに情報技術を応用し、食料生産から流通・加工に係わる農業生産、加工及びエネルギーシステムに関する社会的要求を総合的に問題解決できる実践的人材の育成を目的とします。

2. 求める学生像
沖縄の亜熱帯島嶼性という環境で学ぶことを望み、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し、その学習のために必要な基礎学力を有し、主体的に学習に取り組む態度を身につけ、広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる次のような人を求めています。
・農業・農村の環境整備とそれらが発揮する多面的機能の維持管理に関心がある人
・農業生産から流通・加工に係わる食料システムの構築に興味がある人
・自然エネルギーを活用した循環型地域システムを考えたい人
〇一般入試では特に次の学生を求めます
・農学を学ぶ基礎的な知識・技能を習得した人
〇推薦入試では特に次の学生を求めます
・農業・農村の環境や農業生産システムに関心があり、社会（または地域社会）に貢献する強い意志を持つ人
〇帰国子女特別入試・私費外国人留学生入試では特に次の学生を求めます
・国際的な視点から農業・農村の環境や農業生産システムについて考え、国内外で貢献する強い意志を持つ人

3. 高等学校等で履修すべき科目や習得しておくことが望ましい資格等
高校において、理系科目（数学、理科）を学び、論理的思考力を身につけるようにし、自然科学の基礎知識を習得しておくことが必要です。文系科目（国語、地理歴史、公民、外国語）も幅広く履修し、多様な歴史的・文化的特性や価値観を理解しながら、自らの意見を述べることができるような学習が望まれます。受験のための学習に留まらず、自ら課題を発見し解決し、多様な人々と協働しながら学ぶ姿勢も身につけるよう努めてください。

4. 入学者選抜の基本方針
一般入試（前期日程・後期日程）のほか、大学入試センター試験を課さない推薦入試など、多様な入試方法により知識・技能やそれらの活用能力の評価だけでなく、意欲と主体性をもって学ぶことができるかを、多面的・総合的に評価し、多様な人を広く受け入れます。
〇一般入試
高等学校等における基礎的教科・科目についての学習の達成度を測る大学入試センター試験を課し、前期日程では農学部で専門的教育を受けるに相応しい能力を有しているかをはかるため個別学力試験（数学、理科）を課しています。
また、後期日程は個別学力試験を課さず、大学入試センター試験の理科の配点を高くする傾斜配点により、理科の成績を重視した選抜を実施しています。
〇推薦入試
普通科系の生徒を対象にした入試と農業系の学科の生徒を対象とした入試があります。また、外国留学を所定の期間経験した人を対象とする英語重視の入試があります。推薦入試は高等学校が勉学態度と意欲の面からみて大学で学ぶ能力を有すると認めた人物に対して行います。小論文では農学を学ぶための読解力や論理的な文章を作成する能力をはかり、面接等によって進学の目的や学習意欲などをみます。英語重視の推薦入試では面接により外国語によるコミュニケーション能力をみます。
〇帰国子女特別入試
小論文では農学を学ぶための読解力や論理的な文章を作成する能力をはかり、面接等によって進学の目的や学習意欲などをみます。
〇私費外国人留学生入試
日本留学試験では日本語による授業を理解できる十分な日本語能力と基礎学力をはかり、面接によって進学の目的や学習意欲などをみます。

ディプロマ・ポリシー（DP）

地域農業工学　学士教育プログラムでは、農村環境整備と緑・土・水資源の保全と改善に貢献できる有能な人材、ならびに情報技術を応用し、食料生産から流通・加工に係わる農業生産、加工及びエネルギーシステムに関する社会的要求を総合的に問題解決できる実践的人材となるため、以下に掲げる専門的知識と能力を修得します。
1. 本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力
2. 国際的な人・物・情報の流れが重要性を増した時代において、地域や世界における複雑化した問題を全人類的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力
3. 農学の安定的・持続的生物生産、環境保全および生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力
4. 沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件および歴史的・文化的特性をふまえて、亜熱帯の島嶼環境と調和した自然循環型農業や田園空間の創造、ならびにIT農業の技術開発やバイオマス地域循環システムの構築によって、「緑・土・水」と人間との環境創出を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力
5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術および情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力
6. （地域環境工学コース）自然と調和した農村空間の創出及び環境に配慮した農村基盤の整備に関する技術、ならびに亜熱帯特有の自然条件の下での防災と農村地域の環境を保全する技術に関する専門的知識を理解する能力
（バイオシステム工学コース）食料生産から流通・加工に係わる一連の工程のシステム化および持続可能な再生可能エネルギーの開発や利用に関する専門的知識を理解する能力

毎年確認

カリキュラム・ポリシー（CP）

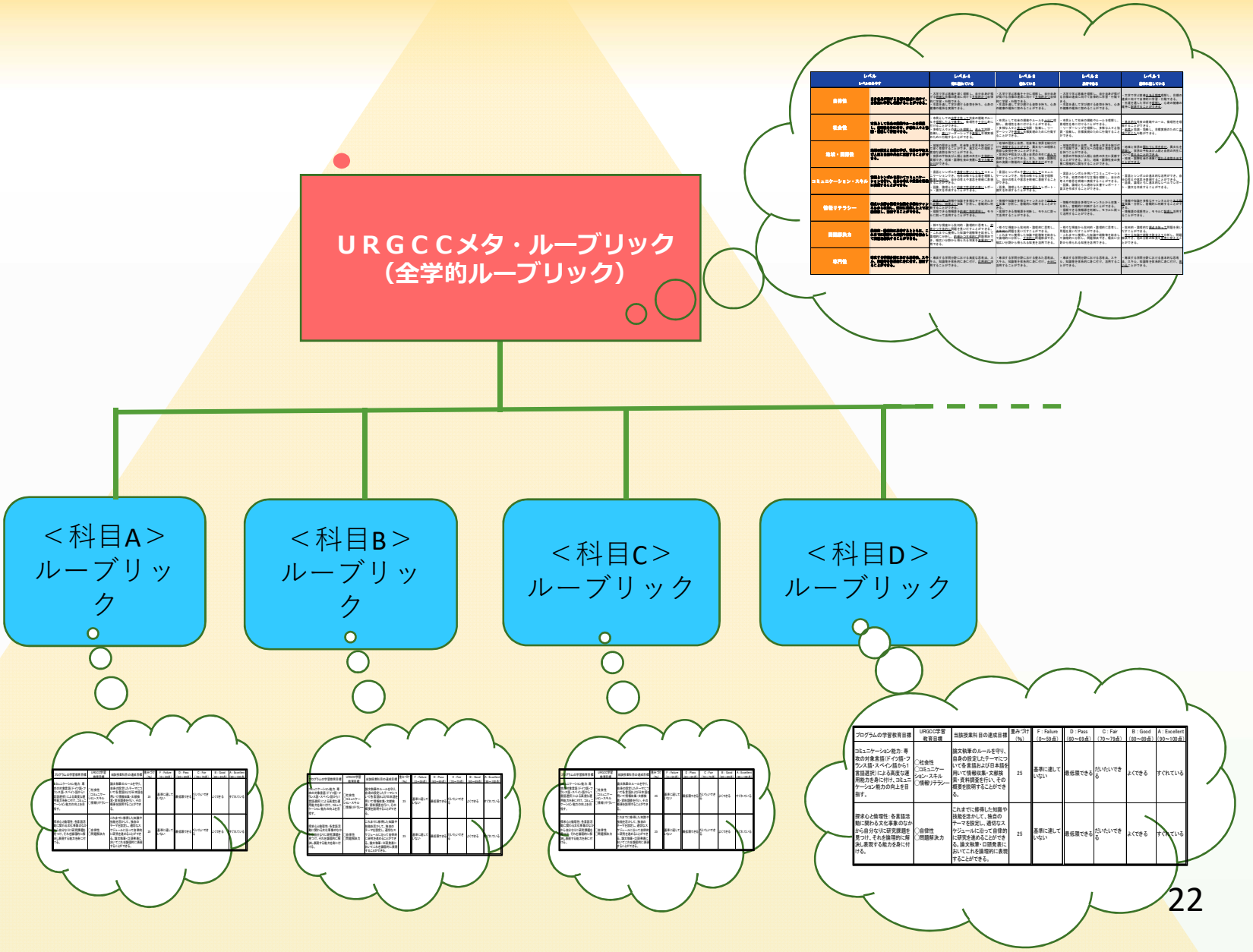
地域農業工学　学士教育プログラムでは、授業の方法・内容などや学習の成果に係る評価基準等を明確に提示し、4年間の学習成果を総合的に評価します。
（1）1年次では、共通教育科目（教養・総合領域）を履修し、人文・社会・自然科学の諸科学の内容や特有な課題に精通し、問題解決に必要な固有の知識や方法を身につけ、それらを現代的状況へ応用できる能力を養い21世紀型市民としての教養を修得します。
（2）1-2年次では、共通教育（基幹領域）の履修を通し、外国語や情報科学の知識を修得し、多様な情報を受け取り、自らの考えを的確に伝える能力を身につけます。
（3）初年次教育科目（「食・農・環境概論」、「基礎フィールド実習」）を履修し、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用についての知識を修得し、食料問題、環境問題の解決策および農業のあり方について考えるとともに、農業・林業・畜産業を実際に体験し農学の基礎を身につけ、大学で学ぶ意義を理解し、自律的で協働して学ぶ態度を身につけ、農学の社会的責任を理解します。
（4）2-3年次では、学科共通（コア）科目を履修し、地域農業工学の原理・理論・法則を理解するとともに亜熱帯島嶼環境での農業・農村環境について理解を深めます。選択科目等を通した実際現場での事例の学習や実験・実習の経験を通し専門知識の活用を具体的に理解し、地域農業工学の知識を活用し社会からの要求を確実に捉え、問題に総合的に取り組む能力を身につけます。コース必修科目の履修により、分野に特有な専門的な知識を修得します。
（5）3年次の「キャリアディベロップメント」、「キャリア実習」の科目は、学問が現場で展開される場面を体験しながら、卒業後のキャリアプランを考え社会の一員としての責任を認識します。
（6）4年次では、卒業論文を通して問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決をすることができる能力を身につけると共に、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身につけます。

6. メタ・ルーブリックとは

- メタ（meta=高次の）とルーブリック（Rubric）を組み合わせた造語
- いわば全学的ルーブリック
- 本来はすべての授業科目でルーブリックを作成することが理想

  →しかし挫折！
- そこで発想を変えルーブリックの親玉を作ることに
- ルーブリックを作成しない科目があったとしても評価基準は担保

メタ・ルーブリックのイメージ



URGCCメタ・ルーブリック

レベル レベルのめやす		レベル４ 特に優れている	レベル３ 優れている	レベル２ 良好である	レベル１ 基準に達している
自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	・大学で学ぶ意義を深く理解し、自分自身が掲げる明確な目標の達成に向けて主体的かつ自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通して学び続ける姿勢を持ち、心身の健康の維持を実践できる。	・大学で学ぶ意義を十分に理解し、自分自身が掲げる目標の達成に向けて主体的かつ自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通して学び続ける姿勢を持ち、心身の健康の維持に努めることができる。	・大学で学ぶ意義を理解し、自分自身が掲げる目標の達成に向けて自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通して学び続ける姿勢を持ち、心身の健康の維持に努めることができる。	・大学で学ぶ意義をある程度理解し、目標の達成に向けて自律的に学習・行動できる。 ・生涯を通した学びを理解し、心身の健康の維持に配慮することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。	・市民としての自覚を持って社会の規範やルールを理解した上で尊重し、倫理性を十分に身に付けることができる。 ・多様な人々との違いを理解し、進んで協調・協働し、高いリーダーシップを発揮し目標実現のために行動することができる。	・市民として社会の規範やルールを十分に理解し、倫理性を身に付けることができる。 ・多様な人々と進んで協調・協働し、リーダーシップを発揮し目標実現のために行動することができる。	・市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付けることができる。 ・リーダーシップを理解し、多様な人々と協調・協働し、目標実現のために行動することができる。	・基本的な社会の規範やルール、倫理性を理解することができる。 ・他者と協調・協働し、目標実現のために立場に応じた行動ができる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	・地域の歴史と自然、社会等と世界を結び付けて深く考察することができ、異文化への理解と寛容な姿勢を持つことができる。 ・世界の平和及び人類と自然の共生に主体的に貢献でき、地域・国際社会の発展に秀でた働きかけができる。	・地域の歴史と自然、社会等と世界を結び付けて考察することができ、異文化への理解と寛容な姿勢を持つことができる。 ・世界の平和及び人類と自然の共生に進んで貢献することができる。また、地域・国際社会の発展に積極的に優れた働きかけができる。	・地域の歴史と自然、社会等と世界を結び付けて理解でき、異文化への理解と寛容な姿勢を持つことができる。 ・世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。また、地域・国際社会の発展に積極的に関与することができる。	・地域と世界の関わりに目を向け、異文化を認識し、世界の平和及び人類と自然の共生について考えることができる。 ・地域・国際社会の発展に関わる姿勢を示すことができる。
コミュニケーション・スキル	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	・言語とシンボルを高度に使いこなしてコミュニケーションでき、他者の様々な立場を理解し尊重しながら、自分の考えや意思を明確に表現することができる。 ・語彙、論理ともに的確で完成度の高いレポート・論文を作成することができる。	・言語とシンボルを使いこなしてコミュニケーションでき、他者の様々な立場を理解し、自分の考えや意思を明確に表現することができる。 ・語彙、論理ともに適切で優れたレポート・論文を作成することができる。	・言語とシンボルを用いてコミュニケーションでき、他者の様々な立場を理解し、自分の考えや意思を明確に表現することができる。 ・語彙、論理ともに適切な文書でレポート・論文を作成することができる。	・言語とシンボルの基本的な活用ができ、自分の考えや意思を表現することができる。 ・語彙、論理ともに基本的なレベルでレポート・論文を作成することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	・精度の高い情報や知識を多様なチャンネルから正確に、効率よく収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・信頼できる情報源を的確に取捨選択し、モラルに則って活用することができる。	・情報や知識を多様なチャンネルから効率よく収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・信頼できる情報源を判断し、モラルに則って活用することができる。	・情報や知識を多様なチャンネルから収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・信頼できる情報源を判断し、モラルに則って活用することができる。	・情報や知識を多様なチャンネルからある程度収集・分析し、客観的に判断することができる。 ・情報源の信頼性と、モラルに配慮し活用することができる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	・様々な視座から批判的・論理的に思考し、的確かつ主体的に問題を見いだすことができる。 ・これまでに獲得した知識や経験等を総合して論理的に分析し、的確かつ主体的に問題解決でき、幅広い分野から得られる知見を発展的に活用できる。	・様々な視座から批判的・論理的に思考し、主体的に問題を見いだすことができる。 ・これまでに獲得した知識や経験等を総合して論理的に分析し、主体的に問題解決でき、幅広い分野から得られる知見を活用できる。	・様々な視座から批判的・論理的に思考し、問題を見いだすことができる。 ・これまでに獲得した知識や経験等を総合して論理的に分析し、問題解決でき、幅広い分野から得られる知見を活用できる。	・批判的・論理的な視点を持って問題を見いだすことができる。 ・持てる知識や経験を踏まえて分析し、問題解決でき、他の分野の知見も参考に捉えることができる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。	・専攻する学問分野における高度な思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、応用的に活用することができる。	・専攻する学問分野における優れた思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、十分に活用することができる。	・専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。	・専攻する学問分野における基本的な思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、用いることができる。

備考：琉球大学 グローバル教育支援機構 開発室　2017　『琉球大学URGCC FDガイド　第２巻　ルーブリック編』　参照

レベル４ ＝A、レベル３ ＝B、
レベル２ ＝C、レベル１ ＝D
の成績評価に対応

例：集大成的科目における評価基準表

プログラムの学習教育目標	URGCC学習教育目標	当該授業科目の達成目標	重みづけ（%）	F：Failure（0～59点）	D：Pass（60～69点）	C：Fair（70～79点）	B：Good（80～89点）	A：Excellent（90～100点）
コミュニケーション能力：専攻の対象言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語から1言語選択）による高度な運用能力を身に付け、コミュニケーション能力の向上を目指す。	◯社会性 ◯コミュニケーション・スキル ◯情報リテラシー	論文執筆のルールを守り、自身の設定したテーマについて各言語および日本語を用いて情報収集・文献検索・資料調査を行い、その概要を説明することができる。	25	基準に達していない	最低限できる	だいたいできる	よくできる	すぐれている
探求心と倫理性：各言語活動に関わる文化事象のなかから自分なりに研究課題を見つけ、それを論理的に解決し表現する能力を身に付ける。	◯自律性 ◯問題解決力	これまでに修得した知識や技能を活かして、独自のテーマを設定し、適切なスケジュールに沿って自律的に研究を進めることができる。論文執筆・口頭発表においてこれを論理的に表現することができる。	25	基準に達していない	最低限できる	だいたいできる	よくできる	すぐれている
専門的知識：各言語圏の文学・文化・歴史・民俗等に関する専門知識およびヨーロッパ言語文化圏・EU社会全体の横断的な理解を深める。	◯地域・国際性 ◯専門性	各言語圏やヨーロッパの文化・社会に関してこれまで得た専門的知識を活かし、自身のテーマに深くアプローチし、さらに高度な知識と理解を得ることができる。	25	基準に達していない	最低限できる	だいたいできる	よくできる	すぐれている
異文化理解：高度な異文化理解を実現し、地域社会および国際社会でその能力を発揮できる人材を育てる。	◯社会性 ◯地域・国際性 ◯コミュニケーション・スキル	対象とする言語の文かについての知識と理解を深め、自国と異なる文化を尊重しながら調査・研究を遂行することができる。	25	基準に達していない	最低限できる	だいたいできる	よくできる	すぐれている

※ある学士教育プログラムで用いられた評価基準表（平成28年度）を参照

7. URGCCの効果の検証

URGCCに関する学生調査　調査結果（2016年　９月実施）

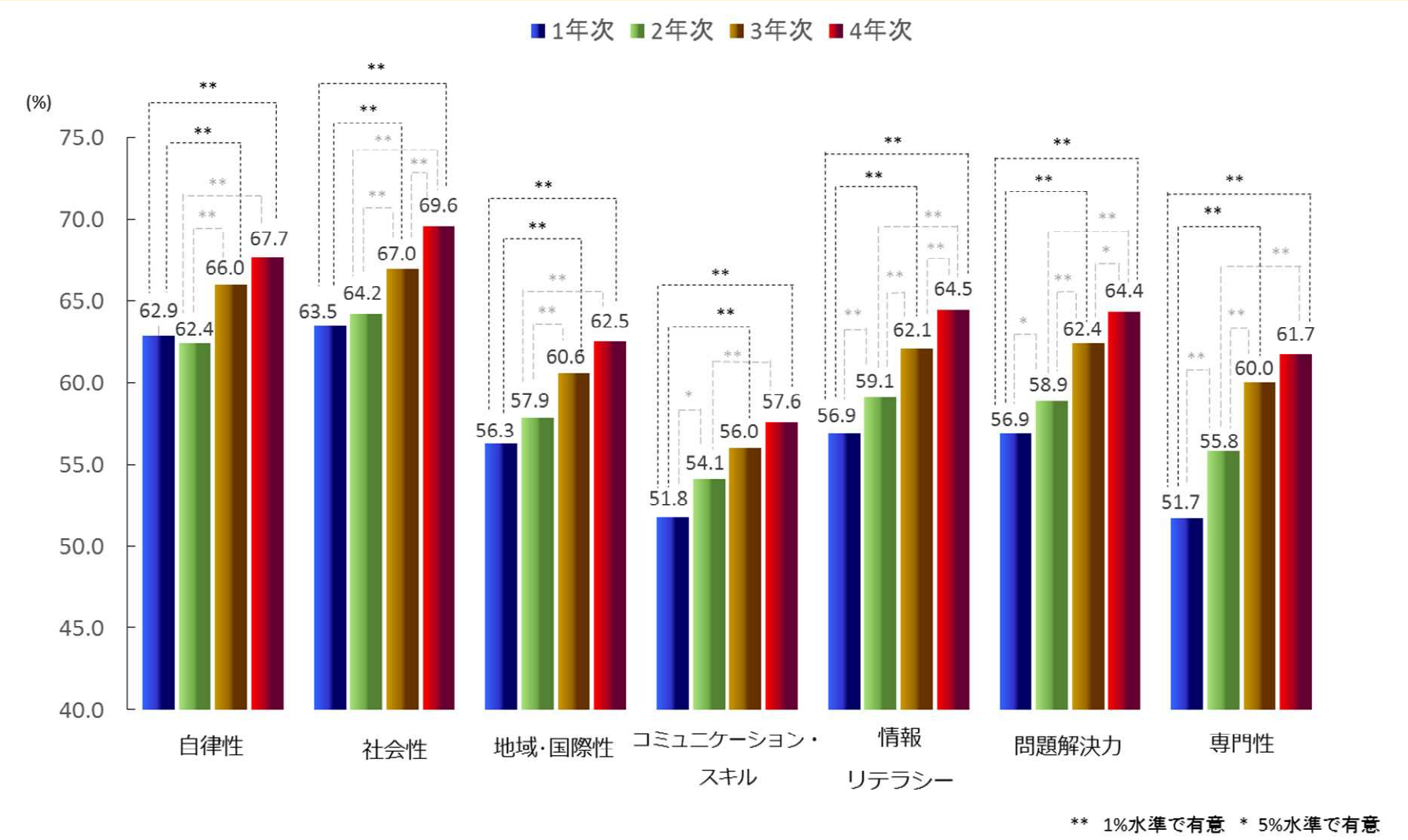


図７－１　URGCC学習教育目標得点率平均の分散分析結果（学年間比較）

URGCCに関する大学教員調査　調査結果（2016年　３月実施）

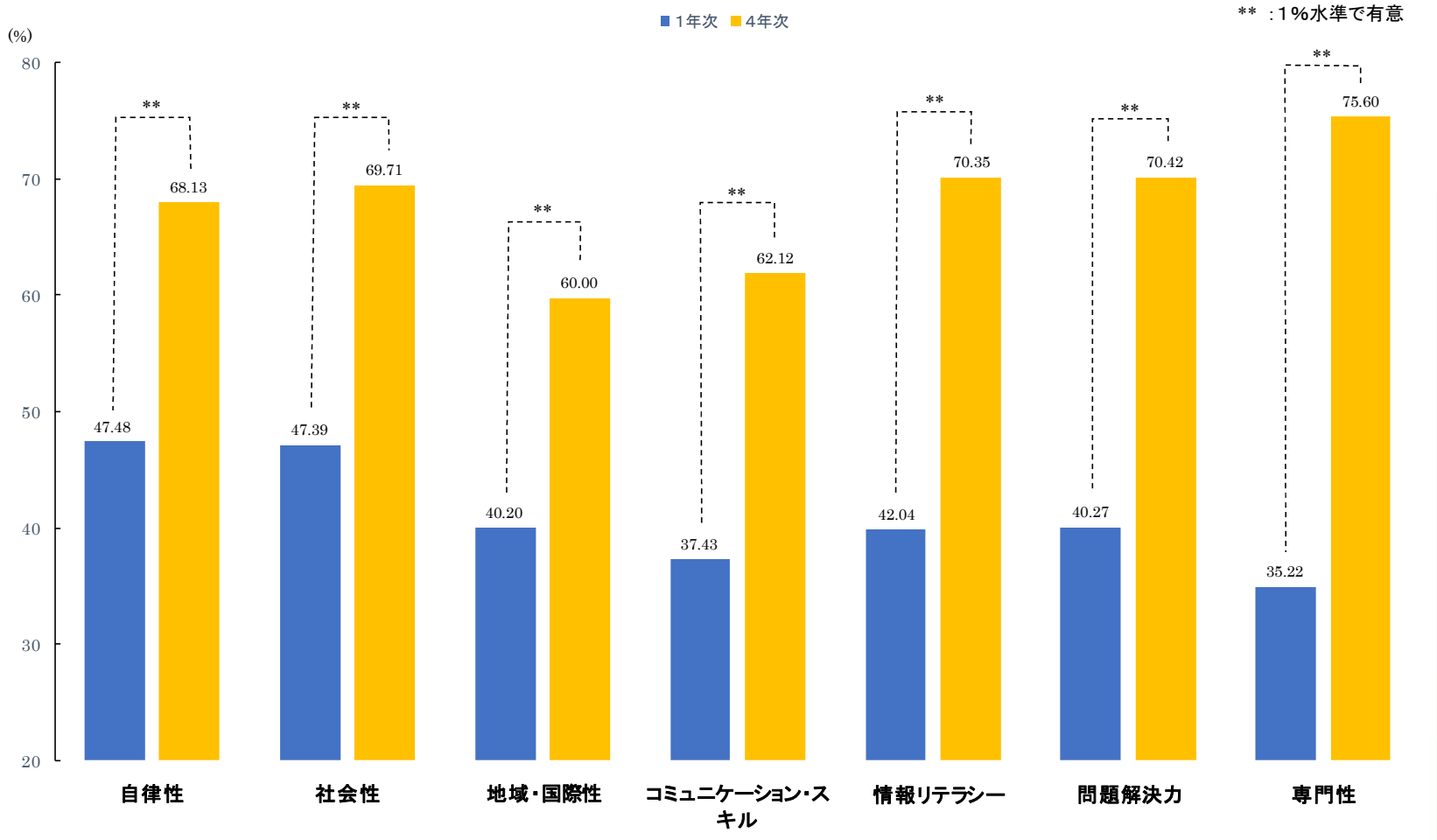


図７－２　URGCC学習教育目標平均得点率の年次間比較

教育への満足度に関する調査結果（2011年、2016年実施学生調査より）

調査の好きな大学？

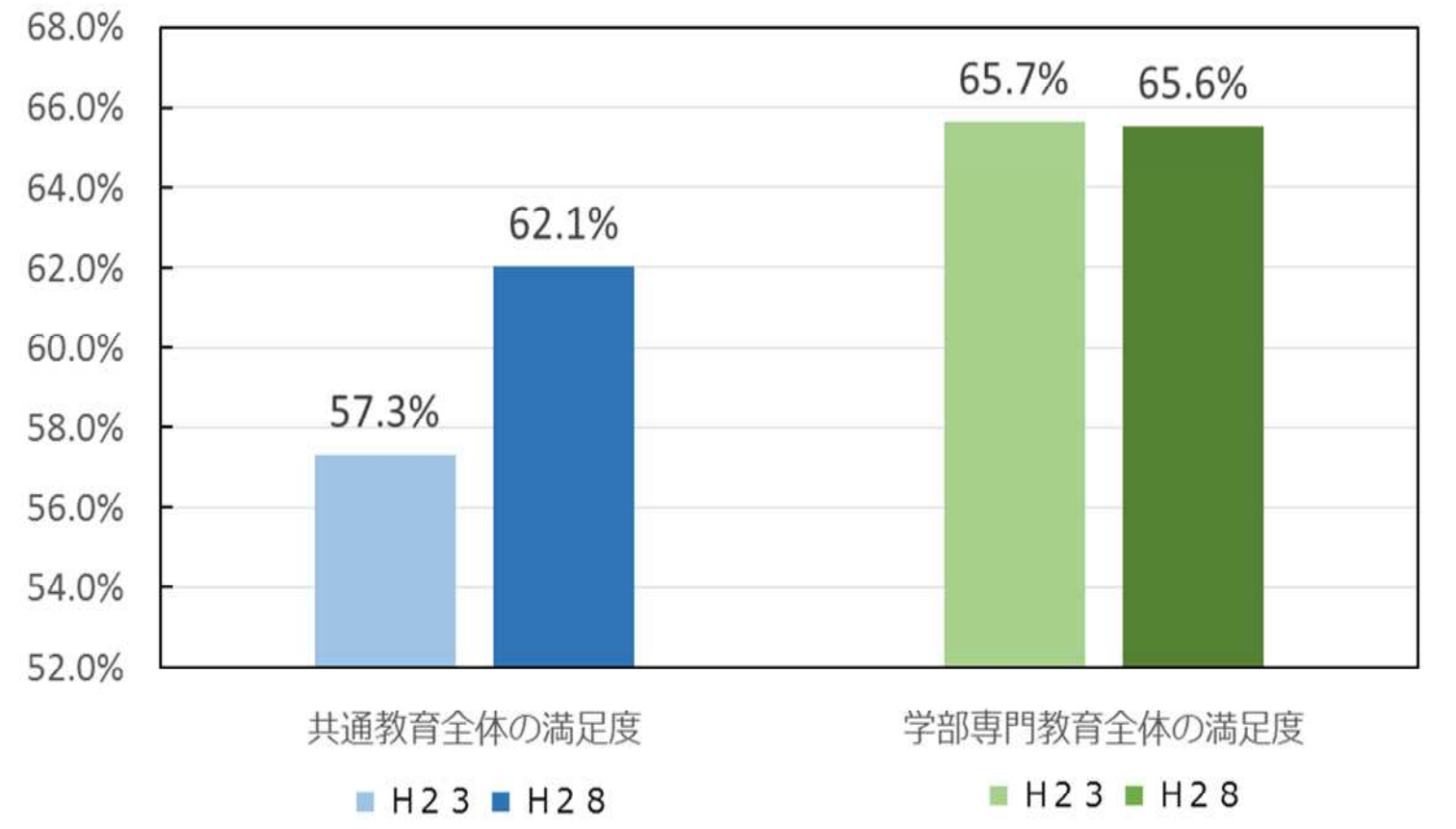


図7－3　学部4年次の大学教育への満足度の比較（平成23年度と平成28年度）